

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	カネビニール S1004
整理番号	SK-10
会社名	株式会社カネカ
住所	大阪市北区中之島 2-3-18
担当部門	Vinyls and Chlor-Alkali Solutions Vehicle R&B・Technology グループ、Technology チーム
担当者	Technology チームリーダー
電話番号	06-6226-5356
FAX 番号	06-6226-5345
e-mail:	kasei-hinshitsu@kaneka.co.jp
緊急連絡先	株式会社カネカ 高砂工業所 合成樹脂製造部
電話番号	079-445-2043
緊急連絡先	株式会社カネカ 鹿島工場 塩化ビニール課
電話番号	0299-96-7421

### 2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類 分類できない、又は、区分に該当しない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル： 該当なし

注意喚起語： 該当なし

危険有害性情報： 該当なし

注意書き： 該当なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

吸入による呼吸器の刺激や長期、又は反復ばく露による軽度の呼吸器障害の可能性がある。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質

化学名又は一般名 ポリ塩化ビニル (Polyvinyl Chloride)  
 慣用名又は別名 塩化ビニル樹脂、PVC  
 化学式：  $(CH_2-CHCl)_n$

成分及び濃度又は濃度範囲

化学名又は一般名	濃度範囲	官報公示整理番号		CAS No.
		化審法	安衛法	
ポリ塩化ビニル	99% 以上	(6)-66	既存物質	9002-86-2
重合添加剤(残留物)	1% 以下	非公開	非公開	非公開

GHS 分類に寄与する不純物及び安定化添加物  
特になし

#### 4. 応急措置

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪いときは、医師に連絡、必要に応じて手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 多量の水と石鹼で洗う。  
必要に応じて、医師の診察を受ける。

眼に入った場合 直ちに清浄な水で15分間以上洗眼する。必要に応じて、医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合 多量に飲み込んだ場合は、口を水ですすぎ医師の手当てを受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

吸入による呼吸器の刺激や長期、又は反復ばく露による軽度の呼吸器障害の可能性がある。

応急措置をする者の保護

救助者は、保護手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

特になし

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤 水、粉末消火剤、泡消火剤。

使ってはならない消火剤 特になし

火災時の特有の危険有害性 燃焼時に刺激性のある塩化水素ガスが発生する。

特有の消火方法 火災発生場所の周辺に、関係者以外の立入を禁止する。消火作業は、風上から行う。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、状況に応じた保護具(耐熱手袋、ゴーグル型保護眼鏡、空気呼吸器等)を必ず着用する。燃焼により有毒ガス(塩化水素)が生成するため、呼吸用保護具を必ず着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

風上から作業し風下の人を退避させる。作業の際には保護手袋、保護眼鏡、防じんマスクを着用し粉じんを吸入しないようにする。

環境に対する注意事項

漏出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起さないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材

飛散物をかき集めて空容器に回収する。真空で吸い取る等、粉じんが飛散しない方法で取り除く。

二次災害の防止策

特になし。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

換気の良い場所で行い適切な保護具(保護手袋、保護眼鏡、防じんマスク等)を着用すること。

火気を避け、静電気対策のために装置、機器等の接地を確実にを行う。

局所排気又は全体換気の設備のある場所で取扱う。

安全取扱注意事項

みだりに粉じんが発生しないように取扱う。粉じんを吸い込まないようにする。

接触回避

「10.安定性及び反応性」を参照

衛生対策

使用する時に飲食又は喫煙をしないこと。休憩場所には、洗身シャワー、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗い、うがいをする。

保管

安全な保管条件

直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料

紙袋、フレコン、サイロ。

---

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

管理濃度 該当なし

許容濃度

日本産業衛生学会（2021年）：

第三種粉じん 2mg/m<sup>3</sup>（吸入性粉塵）、8 mg/m<sup>3</sup>（総粉塵）

ACGIH (2017年)

TWA 1mg/m<sup>3</sup> (Polyvinyl chloride Respirable Fraction)

設備対策

粉じんが発生する作業場には局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具

防じんマスク

手の保護具

ゴム手袋

眼、顔面の保護具

防じん眼鏡、保護ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

長袖作業着

特別な注意事項：特になし

---

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

固体（粉体）

色

白

臭い

無臭

融点/凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

酸素指数約 45 の自己消火性樹脂である <sup>2)</sup>

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界

データなし

引火点

391°C <sup>1)</sup>

自然発火点

454°C <sup>1)</sup>

分解温度

データなし

pH

データなし

動粘性率

該当しない

溶解度	水に溶解しない
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	真比重 1.4(20℃)
相対ガス密度	該当しない
粒子特性	数 $\mu\text{m}$ ～数 100 $\mu\text{m}$ (粒子径)

## 10. 安定性及び反応性

反応性：	通常の使用条件下では、安定である。
化学的安定性：	通常の使用条件下では、安定である。
危険有害反応可能性：	通常の使用条件下では、安定である。
避けるべき条件：	火気を近づけない。
混触危険物質：	フッ化物と接触すると激しく反応する。 硫酸、硝酸、塩酸。
危険有害な分解生成物：	燃焼すると刺激性の塩化水素ガスを発生する。

## 11. 有害性情報

急性毒性（経口）	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性又は皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
誤えん有害性	分類できない

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）	データなし
水生環境有害性 長期（慢性）	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従って処理を行う。  
廃棄を委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に  
処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

国連番号	該当なし
品名(国連輸送名)	該当なし
国連分類	該当なし
容器等級	該当なし
海洋汚染物質(該当/非該当)	非該当

### 国内規制

輸送又は輸送手段に関する安全対策	特になし
直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れ防止を行う。	
緊急時応急措置指針番号	該当なし

## 15. 適用法令

化審法	既存化学物質
化管法(PRTR 法)	指定化学物質に該当しない
労働安全衛生法	表示・通知義務対象物質に該当しない
廃掃法	産業廃棄物
消防法	非危険物
毒劇物取締法	毒物、劇物に該当しない
船舶安全法	危険物に該当しない

---

## 16. その他の情報

### ・ 引用文献

- 1) 伊藤公正編「プラスチックデータハンドブック」工業調査会(1980), P116
- 2) 同上, P110

### ・ 記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいておりますが、物理化学的性質、危険性等に関してはいかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の見取り図を対象としたもので、特殊な取扱いの場合には、用途用法に適した安全対策を施してご利用下さい。

---